

## 農 研 速 報

## 大豆の生育概況(龍ヶ崎市、最終版)

地域名	生育(作柄・品質)概況
茨城県 (龍ヶ崎市)	<p>龍ヶ崎市における2024年の気象と大豆の生育経過、成熟期の生育および収量、品質の平年との比較は以下のとおりである。</p> <p>1) 気象(6月第4半旬～10月第6半旬)  <b>日平均気温</b>: 6月は高く(平年差+0.7℃)、7月はかなり高く(平年差+2.4℃)、8月～9月はかなり高く(平年差+1.5℃)、10月はかなり高かった(平年差+2.5℃、図1)。  <b>降水量</b>: 6月は平年比392%とかなり多く、7月は平年比27%と少なく、8月～9月は平年比53%と少なく、10月は平年比87%と平年並であった(図2)。  <b>日照時間</b>: 6月は平年比87%とやや短く、7月は130%とやや長く、8月～9月は平年比106%と平年並で、10月は平年比77%と短かった(図3)。</p> <p>2) 生育経過  6月21日に播種を行ったが降雨の影響により出芽不良となったため7月3日に再度播種を行った。  <b>里のほほえみ</b>: 平年より播種期が14日遅くなったため出芽期は7月7日と13日遅く、開花期は8月7日と7日遅かった(表1)。播種後22日の地上部の生育は、平年をかなり下回る～下回った。播種後54日の地上部の生育は、平年並～平年をかなり下回った。播種後85日の一株莢数は平年並で、一株莢重はやや軽かった(表2)。</p> <p><b>納豆小粒</b>: 平年より播種期が14日遅くなったため出芽期は7月7日と13日遅く、開花期は8月11日と4日遅かった(表1)。播種後22日の地上部の生育は、平年をかなり下回る～やや下回った。播種後54日の地上部の生育は、概ね平年並であった。播種後85日の一株莢数は平年並で、一株莢重はやや重かった。(表2)。</p> <p>3) 成熟期の生育および収量、品質  里のほほえみの成熟期は7日遅く、納豆小粒の成熟期は平年並であった。品種別の調査項目の平年値との比較は以下のとおり。  <b>里のほほえみ</b>: 成熟期は7日遅かった。倒伏はやや少なく、青立ちはやや少なかった。地上部の生育は、主茎長はかなり短く、主茎節数はやや少なく、分枝数、茎の太さは平年並であった。百粒重は平年並で、稔実莢数はかなり多く、不稔莢数はやや少なかったため、子実重は41.2kg/aと平年よりやや重かった。外観品質は平年よりやや劣った(表1)。  <b>納豆小粒</b>: 成熟期は平年並であった。倒伏はかなり少なく、青立ちはかなり少なかった。地上部の生育は、主茎長はやや短く、主茎節数、分枝数はやや少なく、茎の太さはやや細かった。百粒重はやや軽く、稔実莢数はやや少なく、不稔莢数は少なく、子実重は37.5kg/aと平年並であった。外観品質は平年並であった(表1)。</p>

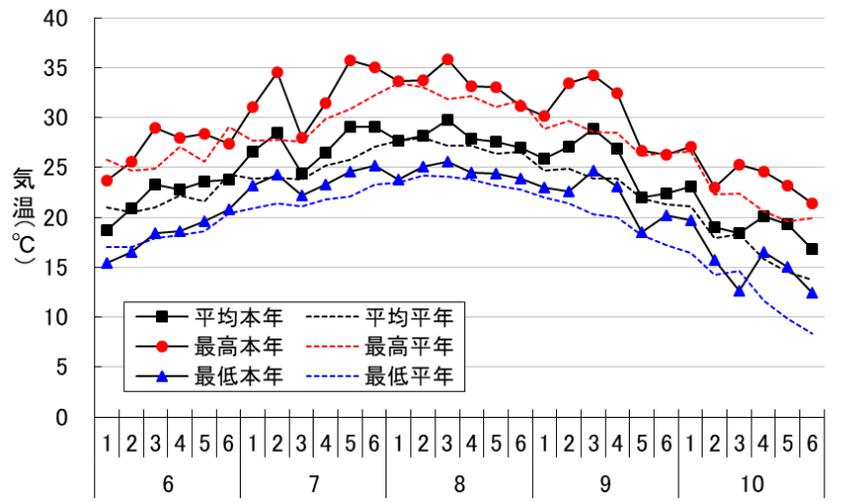


図1 半旬別最高・最低・平均気温の推移 (月・半旬)

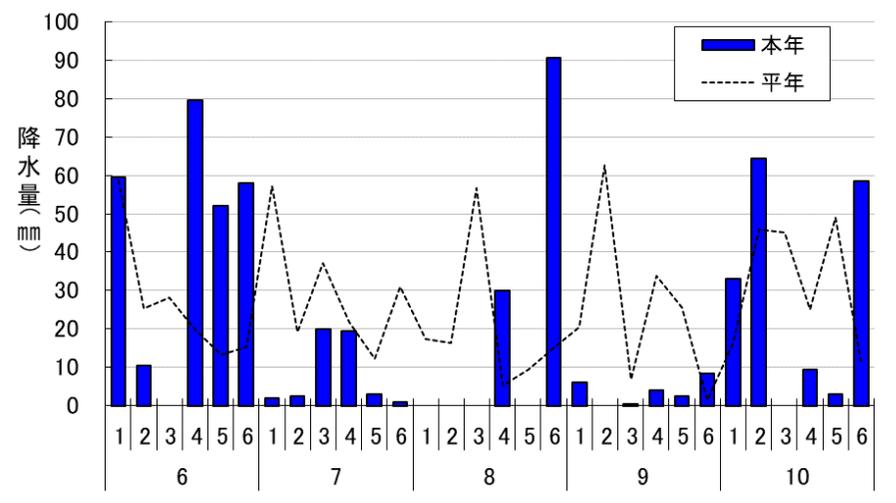


図2 半旬別降水量の推移 (月・半旬)

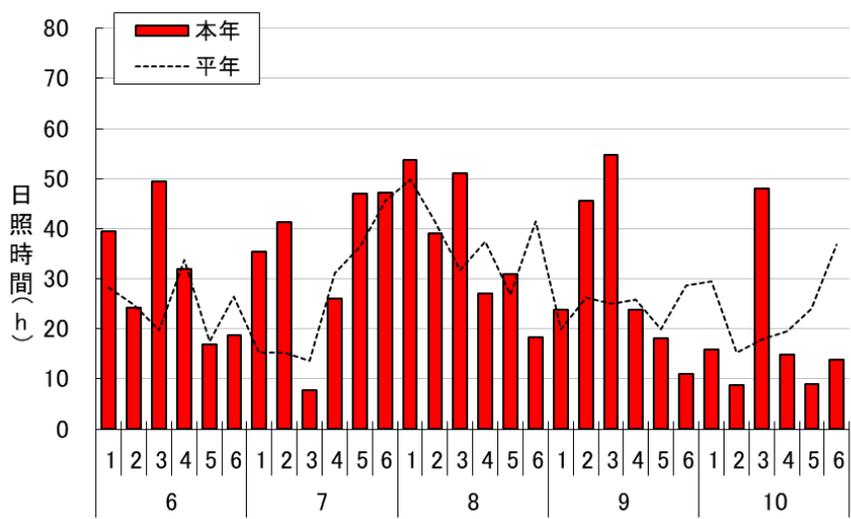


図3 半旬別日照時間の推移 (月・半旬)

表1 輪換畑における大豆の生育、収量、品質（龍ヶ崎市、水田利用研究室）

品 種	出芽期		開花期		成熟期		倒伏程度		青立程度		主茎長		主茎節数		分枝数	
	本年 (月日)	平年差 (日)	本年 (月日)	平年差 (日)	本年 (月日)	平年差 (日)	本年	平年差	本年	平年差	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (節)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)
里のほほえみ	7.07	13	8.07	7	10.30	7	0.0	-1.2	1.0	-1.2	44	72	12.6	82	4.6	103
納豆小粒	7.07	13	8.11	4	10.27	0	1.0	-2.0	0.0	-1.0	58	85	14.7	91	7.9	82

品 種	茎の太さ		全重		稔実莢数		不稔莢数		子実重		百粒重		外観品質	
	本年 (mm)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	平年比 (%)	本年 (g/100粒)	平年比 (%)	本年 (1-7)	平年
里のほほえみ	10.9	96	75.3	104	68.5	120	6.9	56	41.2	118	36.1	96	5.0	-0.8
納豆小粒	9.4	95	67.9	89	178.9	92	12.5	50	37.5	99	10.0	93	5.0	-0.1

【注釈】

- 1) 耕種概要と平年値は表1に準ずる
- 2) 茎の太さは、子葉節と初生葉節の中間で最も太い部分を測定
- 3) 全重は、子葉節で切断した地上部の風乾後の重さ
- 4) 倒伏程度は、主茎傾斜角度により判定し、0 (5°以下)、1 (6~15°)、2 (16~25°)、3 (26~45°)、4 (46~65°)、5 (66°以上) とした
- 5) 青立程度は、0 (無)、1 (微)、2 (少)、3 (中)、4 (多)、5 (甚) とした
- 6) 子実重、百粒重は水分15%換算。子実重は「里のほほえみ」が7.3mm篩上、「納豆小粒」は4.9mm篩上かつ目視で選別した後の重さ
- 7) 外観品質は1 (上の上)、2 (上の中)、3 (上の下)、4 (中の上)、5 (中の中)、6 (中の下)、7 (下) とした

表2 輪換畑における大豆の生育経過（龍ヶ崎市、水田利用研究室）

品 種	調査月日 (播種後日数)	主茎長		主茎節数		分枝数		茎の太さ		地上部生体重		一株莢数		一株莢重	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (節)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (mm)	平年比 (%)	本年 (g/株)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	平年比 (%)	本年 (g/株)	平年比 (%)
里のほほえみ	7.25 (22)	15	40	6.1	60	0.0	0	4.5	54	8.8	16	-	-	-	-
	8.26 (54)	45	77	11.9	85	4.2	94	11.1	88	208.4	79	73.0	85	10.4	29
	9.26 (85)	44	73	12.0	85	4.7	106	11.4	92	298.2	101	69.7	97	108.3	92
納豆小粒	7.25 (22)	12	39	6.7	64	0.0	0	3.9	65	7.5	20	-	-	-	-
	8.26 (54)	75	110	16.2	99	6.9	88	10.7	101	242.7	98	153.8	98	2.0	28
	9.26 (85)	67	95	15.7	96	8.4	89	11.0	101	322.3	100	222.0	101	114.0	106

【耕種概要】

- 1) 圃場来歴：転換1年目（前作麦）
- 2) 播種期：7月3日
- 3) 播種密度：11.1株/m<sup>2</sup>（畦間60cm、株間15cm）1本立て
- 4) 基肥：N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=0.3-1.2-1.2kg/a
- 5) 中耕・培土：7月23日、7月30日（それぞれ子葉節、初生葉節まで実施）
- 6) 2024年6月21日に播種を行ったが播種直後の降雨により出芽不良となったため2024年7月3日に再度播種を行った。

【注釈】

- 1) 生育調査は8月26日に実施
- 2) 茎の太さは子葉節と初生葉節の中間で最も太い部分を測定
- 3) 地上部生体重は子葉節で切断した地上部の重さ

【平年値】

令和1年～令和5年播種の5カ年の平均値



写真 所内大豆の成熟期頃の生育状況(「里のほほえみ」、「納豆小粒」は 2024 年 10 月 31 日撮影)

## 気象概況および生育状況における表現について

平年値(過去5年間の平均値)との違いの程度を、「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」等の階級区分で表しています。  
各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めています。  
さらに、「低い(少ない)」、「高い(多い)」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。

